

フォト

PHOTO

国や町から長寿のお祝い

9/22
木

敬老訪問

敬老の日を前に、民生委員・児童委員など、各地区の皆さんにご協力をいただき、町内最高齢者を始め、本年度に節目の年齢（88歳、99歳、100歳）を迎える町民の皆さんの長寿をお祝いしました。

満100歳の長谷川實さんは、内閣総理大臣からのお祝い状と記念品をにこやかな表情で受け取っていました。また、町内最高齢（102歳）の伊藤重光さんは、「これからもお元気で。来年もお祝いさせてください」と町長が長寿のお祝いのことをおかけすると、力強くうなずかれていました。

これからも皆さんのますますのご健康をお祈り申し上げます。



認知症についてみんなで考えよう

9/24
土

ロバ隊長の小物づくり



ららぽーと愛知東郷内にある平和堂の一角で、親子で認知症サポーターキャラバンのマスコット「ロバ隊長」のフェルトストラップなどのグッズを作るイベントが行われました。

子どもたちにもわかりやすいよう紙芝居などで認知症について説明した後、いよいよ小物づくりがスタート。トッピーの塗り絵の缶バッジやロバ隊長のフェルトを重ねたストラップを作製しました。ストラップにひもを通す工程は子どもたちには難しかったようで大人たちが手伝い完成させることができました。

参加した子どもたちは自作のグッズを手に満足した顔で会場を後にしました。おうちに帰ってから認知症について家族で考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

世界の楽器に触れて

9/25
日

多文化子育てサロン 第2回「世界の楽器で奏でるみんなのリズム」

白鳥コミュニティセンターで第2回多文化子育てサロン「世界の楽器で奏でるみんなのリズム」を開催しました。

このイベントは、本町と名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学との連携事業として開催し、当日は11組31人の親子が世界の様々な楽器に触れ楽しみました。

イベントは、学生が主体となり、リズム遊びや楽器ビンゴなどで触れ合ったり、参加した子どもたちが一緒にミュージックベルで「きらきら星」を演奏したりしました。

また、この日が、演奏初披露となる和太鼓サークル「ポンポコ」の迫力ある演奏に子どもたちは引き込まれていました。

参加した藤井恵利加さんと勇輔君（3歳）は「普段、触れることのできない様々な楽器を手にするのができて子どもにとって、とても良い経験になりました。また、参加したいです」と笑顔で話してくれました。

また、短期大学2年の丸山守さんは「本番は練習とは雰囲気も全く違って緊張しましたが子どもたちと直接触れ合うことができ、よい経験になりました」と話してくれました。



ニュース NEWSな

健康寿命を延ばしましょう

9/1~4
木 日
9/9~12
金 月

東郷町・名古屋大学共同事業「東郷いきいき度チェック」



東郷町と名古屋大学は共同で「東郷いきいき度チェック」を実施しました。65歳以上の東郷町特定・長寿健診対象者で希望した500人以上が参加し、握力・骨密度・歩行評価などの検査を受けました。

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻の杉浦英志教授は「外出頻度が少なくなったことで下肢の筋量や骨密度に影響が出ている人もいましたが、本事業をきっかけに住民の皆さんの健康意識の向上に繋がればと思います」と話しました。



参加した山岸鈴代さんは「自分の身体能力を知ることができて楽しかったです。これから食事などに気を付けようと思いました」と笑顔で話しました。

南極の氷はペンギンのにおい？

9/8
木

南極での体験談に園児も興味津々



第63次南極地域観測隊の隊員として氷河の研究に務めた近藤研さんに、中部保育園の園児を対象として南極での体験を話していただきました。

中部保育園に通う園児の保護者が友人の近藤さんからプレゼントされた南極の氷を中部保育園で披露したことがきっかけ。南極の氷を実際に触った子どもたちは「溶けるときにプツプツと音がする！」「ペンギンのにおいがする！」と大興奮し、ぜひ直接お話を聞きたいということで今回のイベントが企画されました。



南極の写真や動画を交えた体験談の後「南極の氷が溶けたらどうなるの？」「寒いのになぜ草が生えているの？」など園児からたくさんの質問があり、一つ一つ丁寧に答えていただきました。

近藤さんは「自分自身も南極へ行くのは初めてだった。子どもたちが南極について学ぶきっかけになれば」と子どもたちの未来に期待を寄せていました。